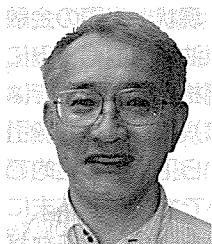


# 輸入牛肉 規制緩和で引き合い増え堅調

ミートコンパニオン常務執行役員 植村光一郎氏



米国产牛肉の輸入規制がBSE（牛海綿状脳症）発生後の禁輸解除後に20カ月齢以下だったが、2月から30カ月齢以下に緩和された。外食業界では当初、牛丼チェーンを中心に値下がりへの期待感が強かった。ただ足元の下げ幅は小幅だ。今夏の市況を食肉加工大手、ミートコンパニオン（東京都立川市）の植村光一郎常務執行役員に聞いた。

（聞き手は日本経済新聞記者 高田哲生）

## 産地高でも買い意欲強い

——規制緩和後も米国产卸値の下げは小さい。

「主に牛丼に使われるバラ肉（ショートプレート）の卸価格は緩和後に1割強下がったが、その後横ばいだ。米国では飼料高などで飼育頭数が減り牛の取引価格が高止まりしている。一方で緩和後に日本側は積極的に買っている。食肉全般に値上がり傾向だが、小売店は牛肉へのニーズが強い。焼き肉店も積極的だ。緩和前の若い牛は味も量も物足りなかったが、巻き返しを図るはずだ。ただ輸入量が前年度比で117%を超えればセーフガード（緊急輸入制限）が発動される可能性もあり、慎重な対処が必要だ。卸価格は4～6月よりも上昇する可能性が高い」

——オーストラリア産牛肉はどうか。

「中国や韓国など日本以外の国の需要も多く、産地の加工業者はどっしりと構えており、安値で販売してくることはなさそうだ。自国の生産量の減少で、米国がハンバーガー用の材料などとして買い付けるケースも目立つ。日本とのEPA（経済連携協定）交渉で、冷凍牛肉の輸入関税率を38.5%から約30%に引き下げるという見通しが出ている。実施は2014年度以降だろうが、実現すれば大き

なインパクトがあるだろう。ただ7～9月期はすぐに卸価格が下がることはない」

## 国産牛肉の相場も上昇へ

——国産牛肉相場との関係はどうか。

「輸入牛肉卸値の上昇は、輸入品と競合する割安な国産牛肉相場にもプラスになりそうだ。国産牛肉は原子力発電所事故による風評被害で需要が落ち込んだが、現在は回復傾向にある。夏は焼き肉などの消費が増え、輸入品とともに消費増が期待できる。A-4規格以上の高級牛肉は輸入品とは関係なく景気回復でギフト向けが堅調だ。ホテル向け（の宴会などの）需要も増えている。今は枝肉高の正肉安だが、徐々に差が縮まるとみている」

——和牛肉の輸出に力を入れている。

「当社は2月にタイに現地法人を設立し、5月から輸出を本格化した。現地では日本の生産履歴の徹底ぶりに驚かれる。高級部位を輸出していたが、我々食肉のプロはももやかたなどの様々な部位の良さを知っている。バラはあぶって脂を落とせばおいしいことを、料理人などに直接訴えていく。和牛肉価格を支えるだけでなく、今後の貿易自由化の流れにも対応できるようにしたい」

